

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103920
法人名	社会福祉法人
事業所名	グループホーム西谷山
訪問調査日	平成20年3月27日
評価確定日	平成20年5月30日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103920		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム西谷山		
所在地	鹿児島県鹿児島市上福元町5604番地 (電話) 099-260-1343		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年5月30日

【情報提供票より】(20年 4月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算(1階:7.15人、2階:7.25人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分		
------	--------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(入居時70,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(4月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山クリニック 桑畑歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

谷山地区西部の住宅地にあるこのホームは、水田や桜の花が見渡せ、庭に小さな菜園があり、季節の移り変わりを楽しめる環境にある。特に食事に配慮され、曜日によって食前酒を出したり、職員が採取した旬の食材を料理に取り入れることで、利用者と職員の会話が広がり、楽しい時間を過ごしている。又、レストランやラーメン店など場所をかえての外食も楽しみのも一つである。管理者は、「利用者と職員がよりよい関係で暮らし続けるために、笑顔と言葉を大切に、動きのあるホームをめざしている。」と語る。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の評価で指摘された市町村への働きかけは、管理者が書類提出を通じてコミュニケーションを図り、相談ごとにも快く応じてもらえる関係ができてきた。地域との交流については、小・中・高校の総合学習の場を提供、協力するなど改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員が各自で自己評価に取り組み、全員の意見を管理者がまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	運営推進会議が今後の課題である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	面会時や意見箱、電話で家族の意見を聞いている。年1回の家族会の個人面談にて、家族の相談や意見を聞く体制をとっている。家族からの苦情に関しては管理者で迅速に対応する事を第1に心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	町内会に加入して、会長、民生委員の協力をもらい、地域の情報収集に努めている。十五夜には参加しているが、地域住民との交流の機会が少ない。谷山中の職場体験の受け入れや、管理者が西谷山小での講演活動を行い、高齢者、福祉について理解してもらおう機会をつくっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針に基づいて、1階、(あなたの声に耳を傾け、あなたがあなたらしく地域に密着した生活が送れるよう支援します。)2階、(家庭的な雰囲気の中であなたの思いを大切に楽しく過ごせるようお手伝いします。)各ユニットごとに独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時、理念の唱和をし、個々の意識づけとなって、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、会長、民生委員の協力をもらい、地域の情報収集に努めている。十五夜には参加しているが、地域住民との交流の機会が少ない。谷山中の職場体験の受け入れや、管理者が西谷山小での講演活動を行い、高齢者、福祉について理解してもらう機会をつくっている。		地域の代表者を交えた運営推進会議を実施して、情報交換を行い、地域の人々と交流の場が増えることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が各自、自己評価を行い、その結果を管理者がまとめ、事業所の自己評価に取り組んでいる。前年度の外部評価を受けて、市との関わりや地域との交流について徐々に改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が今後の課題である。		地域密着型サービスとして、地域の代表者、市の担当者、家族などの参加による意見交換会の第1回開催の実現に向けて、努力されるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは行政関係の書類提出を通じてコミュニケーションを図っている。相談ごとにも快く応じてもらい、サービス向上につなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や月、1回西谷山通信を通して(時々、個人コメントも添える)現状報告している。健康状態に関してはその都度、管理者が電話報告している。金銭管理出納帳は面会時に点検、捺印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、食事会を兼ねて家族会を実施して、活動内容の報告やレクリエーションを行っている。家族会の後に個人面談の時間を設けて、家族が相談しやすい環境をつくっている。苦情等は管理者が迅速に対応して、家族の理解を得る努力をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑えている。新職員に対しては管理者は利用者の背景、勤務にあたっての心得を十分説明し、笑顔をもって利用者に溶け込めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が作成されている。協力病院の勉強会にも参加している。月1回の谷山地区グループホームの勉強会に勤務者以外は全員、出席している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的ではないが、鹿児島市の交流会に参加している。職員も他のグループホームの職員と交流を図っている。利用の希望があればお互いにホームの紹介をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者が会いに行き、状況を把握して、お互いに納得した上でサービス開始となる。利用者のほとんどが施設・病院からの入居である。サービスにあたっては声かけを重視して、周囲の利用者に気遣いながら家庭的な雰囲気を心がけている。利用者が安心して生活ができるまでは家族の面会をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意なこと(野菜作り、料理など)を教わったり、思い出話など、コミュニケーションを大切にしながら、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーション・スキンシップを大事にして、新しい情報を引き出しながら利用者の希望・意向の把握に努めている。家族からも情報収集をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・職員が意見を出して利用者がよりよく生活できるよう、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回モニタリング・カンファレンスを行っている。利用者の状態の変化や状況に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院送迎など、家族・本人の希望・状況に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時や状況が変化した場合に重度化や終末期について本人・家族・協力医と連携をとり、話し合いをしている。		重度化や終末期の対応について、本人、家族、協力医などと方針を共有して、早期段階より意見書を交わすなどの取り組みも期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は申し送り・会議の中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底と、職員の意識向上を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活状況を把握し、一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立を参考に旬の食材を取り入れている。職員と利用者が一緒に料理の下ごしらえなどをしたり、一人ひとりのペースに合わせて会話を楽しみながら食事をしている。又、レストランやラーメン店などを利用して、外食を楽しんでいる。利用者の体調に合わせて、お粥や刻み食なども工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	火・木・土を入浴日とし、職員・利用者1対1でコミュニケーションしながらゆっくり入浴を楽しんでいる。利用者の希望にも対応できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが出来る範囲で趣味・特技(掃除・菜園・踊り・洗濯物干しやたたみ・野菜の収穫など)を発揮できるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に合わせ、戸外を散歩したり、庭のベンチに腰掛け、会話を楽しんでいる。最低、月2回はドライブが計画されているが、それ以外でもその日の天気や利用者の様子(体調や希望など)をみながら、桜島などの遠方への外出も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況においては鍵をかけることもあるが、通常、昼間玄関の鍵はかけない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年1回実施している。台風前は食品・飲料水の備蓄、懐中電灯、カセットコンロの点検に取り組んでいる。		災害に対して、職員がいつでも対応できる支援体制と地域住民との協力体制の強化が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握ができています。利用者の健康状態に応じて、飲料水の補給を重視している。体重測定・血液検査を参考に利用者一人ひとりの健康状態をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用空間は、車椅子でも自由に動けるスペースになっている。居間からは田んぼや桜の木など外の景色が見えて、季節の移り変わりを楽しむことができる。壁には思い出の写真を飾ったり、ひな壇飾り、玄関には昔ながらの壺を置くなど居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面所がついている。思い出の写真や仏壇など使い慣れたものがあり、利用者が思い思いに過ごせるような工夫をしている。		